

高知新聞

須崎工業高等学校

Tsunamiと地球と私たち

1・8四方の模型には、須崎市や高岡郡中土佐町の入り組んだ海岸線や地形が再現されていた。

7月下旬、須崎市の須崎工業高校の玄関ホールで、同校の生徒ら約20人が模型をのぞき込んだ。模型に水を流すと、あつという間に低地が水浸しになる様子が分り、「おおっ」という声が続いた。

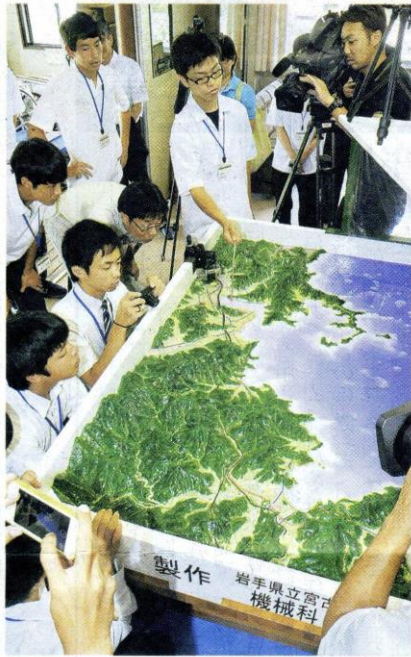
模型は、岩手県宮古市の宮古工業高校が1年かけて製作した。ベニヤ板や粘土を使い、須崎市と中土佐町の沿岸部を1万分の1のサイズで再現している。

宮古工業は2005年から、ジオラマ作りに取り組む。これまでに地元の沿岸部など11基を作り、他県の高校にも寄贈してきた。

東日本大震災の際、宮古工業は校舎1階が浸水する被害に遭った。3年生の館内さん(18)は、模型作りにこんな思いがある。

「町の姿は津波で変わって

④ 県外から30校



「3・11」の記憶語る

今年6月、須崎工業が宮古工業を訪ねた際、宮古の生徒は完成間近の模型を使ってこう助言した。全体的に(須崎)市・中土佐町は土地が低く、

安全な場所はない「常にどこし寄せるか、誰もが一目で分かるものを作りたい」

模型で伝える
宮古工業と須崎工業は、昨年1月に神戸市で開かれた「ほつさい甲子園」を機に交流が始まった。互いの地域を

須崎工業との交流から、感の視点、生徒一人一人の思いがある。

自分たちの町以外にも防災に熱心に取り組んでいる所がある。模型を通して、津波から逃げるイメージを持つてほしい。地理の教諭が手助けをした。タブレット端末を使い、現在地と避難場所の

位置を確認できる。サミット当日は、幡多郡黒潮町の地図や写真も取り込むという。2年生の松坂織人さん(17)は「3・11」の映像を見て衝撃を受けた。ことがサミット参加を決めた理由だ。津波から逃げる心掛けが大事」だと言った。

岩手県奥州市の水沢高校にも「3・11」の記憶を語る生徒がいる。

2年生の遠藤咲季さん(17)の祖父母は、同県大船渡市で被災した。内陸の水沢高から車で約1時間20分の沿岸部。津波で家が流された。震災時、遠藤さんの祖父母は家以外の別々の場所にいた。地震直後、個々に高台にある親戚の家へ向かったという。

「地震が来たら津波が来る。お互い、てんでんこで逃げる」という信頼があった。だから助かった。

この話をサミットで伝えた。いと遠藤さんは思っている。「3・11」では多くの方が亡くなった。地震が多い国だからこそ、そこから学んだ、被害を小さくする対策を世界に訴えたい」

宮古工業生が作り、須崎工業に贈った津波模型。両校は「高校生サミット」にも参加する(7月、須崎市の須崎工業)

（幡多支社・竹中謙輔、須崎支局・山本）

「世界津波の日 高校生サミットin黒潮」25、26日開催



世界津波の日
高校生サミット開催！

須崎工業生参加発表②